

地域包括ケアシステム構築を反映した看護系学士課程における 臨地実習の検討

宮澤美津子, 野池光子
学校法人四徳学園 長野保健医療大学
看護学部設置準備室

キーワード：看護系学士課程、臨地実習、地域包括ケアシステム

要旨：地域包括ケアシステム構築を反映した看護系学士課程における臨地実習の検討を行った。地域包括ケアシステム構築を反映した看護学教育、カリキュラムは、地域で活躍できる人材育成を目標に組み立てる必要がある。地域の特色を生かし臨地実習を組み立てる。地域の特色を生かすためには地域を知る、地域を学ぶ必要がある。実習場所は急性期病院においても入院前どのような生活をしてきたか、退院後どのような生活を送るのかを整理し、その生活支援をすることで地域包括ケアシステムの構築を反映した実習ができる。地域を学ぶ方法は1年次から始めることが有効である。

地域包括ケアシステムは多職種によるネットワークである。IPEをすすめて多職種連携のできる専門職を育成することが急務である。

実習施設と大学の連携を深める取り組みとして共同研究や学内演習への参加を推進してゆく。また看護系大学・看護学校との実習連携会議の開催を検討してゆく。

1.はじめに

社会の要請により看護系大学は急速な増加を示し、平成29年4月現在265教育課程を数えている。これからも増加が見込まれるなかで、教育の質保証に重大な関心が寄せられる。そのなかでも看護学実習は臨床実践能力の育成を図る上で重要な位置を占めている。

日本看護系大学協議会では平成28年「看護系大学学士課程における臨地実習の先駆的取り組みと課題—臨地実習の基準策定に向けて—」の報告⁽¹⁾の中で、実習場所の確保困難や対象の重症化による学生の臨地実習上の対応困難があると指摘する。学生の理解の問題や社会の変化に応じた看護専門職の臨床実践能力の多職種連携におけるケアモデルを中心とした看護ケア技術への変化など実習の課題がある。

さらに厚生労働省は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目前に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを

人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の実現を目指している。今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要⁽²⁾である。

今回、文献検討により、地域包括ケアシステムの構築を目指している現代社会を看護学教育にどのように盛り込んでいくか、カリキュラムを模索することにより、目指す臨地実習の検討を行ったので報告する。

2.目的

地域包括ケアシステム時代の全国の看護系学士課程の臨地実習の課題である実習場所確保、実習の在り方、実習施設との連携の課題克服のための先進的な取り組みを整理して、看護学部カリキュラムにおける臨地実習の資料とする。

表1 実習場所

実習名	実習場所
統合実習	4年次地域包括ケア実習 手術室・ICU実習
在宅看護論実習	1年次・3年次 居宅事業所 宅老所 訪問型グループホーム、特別養護老人ホーム デイサービスセンター
精神看護学実習	3年次 精神科病棟、外来、授産所
成人看護学実習	3年次急性期：ICU/手術室、外科病棟、循環器病棟 慢性期：内科病棟、呼吸器病棟、腎臓病棟 終末期：がん患者、外科・内科病棟
老年看護学実習	3年次 認知症対応型グループホーム デイサービスセンター
母性看護学実習	3年次 産婦人科病棟 外来
小児看護学実習	3年次 小児病棟、外来、NICU クリニック
基礎看護学実習	2年次看護技術実習、看護過程展開実習 病院、地域
基礎看護学実習	1・2年次コミュニケーション実習 まちかど保健室、病院、診療所

3. 方法

文献検討：医学中央雑誌、CINALにおいて、2013年から2017年までの、「看護教育」、「看護大学」、「臨地実習」、「地域包括ケアシステム」をキーワードに文献9件を検索した。これにハンドサーチとして看護系大学協議会報告書⁽¹⁾を入れた。その結果を私たちは、1.実習場所、2.地域包括ケアに関連した実習、3.実習施設との連携、の3つに分類し検討した。

4. 倫理的配慮

所属大学の倫理審査委員会の承認(承認番号2017-1)を得て文献の論旨を変えずに記述した。

5. 結果

5-1. 実習場所

実習場所は表1に示した。1年次はコミュニケーション実習2日として、病院、診療所、クリニックを利用していた。⁽¹⁾

2年次は、看護協会と連携し大学施設内に水曜日「まちかど保健室」を設け学生の実習を行っていた。また、看護技術実習、看護過程展開実習として病院を利用していた。

3年次は各論実習として、小児看護学実習は小児病棟、外来、NICU、クリニックを利用、母性看護学実習は産婦人科病棟、外来などを利用していた。成人看護学急性期実習はICUや手術室、外科病棟、循環器病棟を利用、成人看護学慢性期実習は内科病棟、呼吸器病棟、腎臓病棟を利用していた。成人看護学終末期実習はがん患者、外科病棟、内科病棟を利用していた。精神看護学実習は、精神科病棟、外来、授産所を利用していた。在宅看護論実習を行う目的で自前の大学で地域包括ケア中核センターを設立したり、また訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所で学んでいる⁽³⁾。まちかど保健室も実習場としている⁽⁴⁾。地域で生活する人を意識するために在宅看護論実習は時期を1年次で行っているところがある⁽⁵⁾。あるいは4年次に在宅看護論実習を行っていた。居宅事業所、宅老所、訪問看護ステーション、デイサービスを利用していた。

老年看護学実習は認知症対応型グループホーム、特別養護老人ホーム デイケアサービスセンターを利用していた。4年次は統合実習として地域包括ケア実習、手術室、ICU実習を行っていた。

5-2. 地域包括ケアに関連した実習

地域包括ケアに関連した実習や取り組みを表2に示した。「予防的家庭訪問実習」を行い、地域を志向したカリキュラム変革をした大学がある⁽⁶⁾。これは1~4年の学生がチームを組んで2~3人が1年間に3~4回地域の高齢者宅に予防的な家庭訪問をするものである。6段階の実習と4段階の看護技術演習により看護実践力の修得を図っている。さらに1年次から対象者と継続的に関わることで対象者を「生活者」として捉える視点を学んでいる。それは地域包括ケアシステムの時代に高齢者が自身の意思に沿い最後まで尊厳あ

表2 地域包括ケアに関連した実習や取り組み

「予防的家庭訪問実習」を行い、地域を志向したカリキュラム改革 臨床指導者に臨床教授、臨床講師、臨床助教という職位を与える 大学が臨床指導者研修を行っている 大学院で臨床指導者養成コースを設ける IPE (Inter Professional Education) 専門職種間連携教育 FD (Faculty Development) としてのIPE 入院前と退院後をつなぐ垂直方向の連携

る生活を送るために看護職に求められる力であるとしている。さらに入院から地域に住みながら通院する高齢者の生活に着目したうえで看護を考察していた⁽⁷⁾。実習指導体制の取り組みについては、非常勤教員の設置がされている、あるいは教員の巡回か常時配置がされていた。臨床指導者に対して臨床教授・臨床講師・臨床助教という職位をつけている大学もある。また、大学が臨床指導者研修を行っていた。さらに、大学院に臨床指導者育成コースを設けている大学もあり、臨床指導と教員の役割を明確にすることが望まれていた。

また、IPE(Inter Professional Education)として学部間の連携、全学としての横のつながりやFDとしても利用されていた。具体的には看護学部、医学部、薬学部など保健医療福祉専門職の学部が専門学科を超えて共に学び、チームを組んで実習に出ていくというものであった。利用者ニーズにこたえることができる人材育成をするためであった。地域で暮らす人々の健康維持や介護予防のための生活支援が看護師の重要な役割であることを学ぶ機会になる。

目の前の対象者を「地域の生活者」ととらえ入院前はどのような生活をしていたのか、そして退院後はどんな生活を送るのかといった入院前と退院後をつなぐ垂直方向の連携を学ぶ⁽⁷⁾の実習がある。在宅看護学実習の実践したことについて訪問看護師、教員と共に学生の実践したこと看護の意味づけを行っていた⁽⁸⁾。

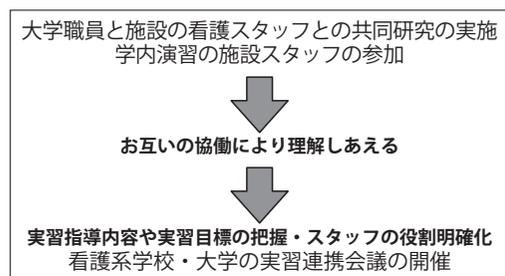


図1 実習施設との連携を深める取り組み

5-3. 実習施設との相互交流や連携(関係性)を深めるための取り組み

実習指導のための調整会議や実習委員会、さらに大学職員と施設の看護スタッフとの共同研究の実施や学内演習の参加などお互いが協働することで理解しあえる。そのような関係性ができると、実習における指導内容や実習目標の把握、スタッフの役割を明確にする必要がある。他大学との競合をさげ、実習施設を確保するための取り組みとして実習施設、実習期間の重複をさけるため看護系学校の実習連携会議を開催していた。

6. 考察

地域包括ケアシステム構築を反映した看護学教育、カリキュラムは、地域で活躍できる人材育成を目標に組み立てる必要がある。地域の特色を生かし臨地実習を組み立てる。地域の特色を生かすためには地域を知る、地域を学ぶ必要がある。

6-1. 実習場所について

実習場所確保が困難な状況において、あらゆる場所で実習できる可能性がある。例えば急性期病院においても、入院前どのような生活をしてきたのか、退院後どのような生活を送るのかを整理しその生活支援をすることで、地域包括ケアシステムの構築を反映した実習ができる。慢性期病院や老人病院であっても実習の仕方が重要である。そして病院だけでなくクリニックやまちの保健室なども検討してゆける。在宅所や認知症対応型グループホームも新しい発見である。さらに特別養護老人ホーム、デイサービスも有力である。地域包括ケアセンターも重要と考える。

6-2. 地域包括ケアシステムに関連した実習

看護協会と連携した大学構内にもうけた地域の保健室を利用している報告があったが、予防医学的な見地からも、新しい魅力があるといえる。さらに地域を志向したカリキュラムを構築した大学の「予防的家庭訪問実習」は、新しい取

り組みである。そして、地域包括ケアシステムは多職種によるネットワークである。IPE をすすめて多職種連携のできる専門職を育成することが急務である。地域包括ケアシステムの中に看護系学士課程がどのように参画でき、どのように大学自体が資源となるかを検討する必要がある。重要なことは、教育理念と実習のつながりを意識し実習を組み立てる。「いつまでも元気に暮らすために⁽⁹⁾」、生活支援・介護予防を老人クラブ・自治体・ボランティア・NPO等のシステムの中に参画できると、より学生の学習効果が上がると考える。そのためには、地域の自治体と協働していくことになる⁽¹⁰⁾。健康チェックのあと筋力アップなどの体操を行って転倒予防を図り、骨折による寝たきり予防を図る。このような、健康教室により、健康情報を収集し、その場でアドバイスして健康寿命を延伸していく活動は有益となる。

6-3. 実習施設との連携

実習施設と大学の連携を深める取り組みは文献の中でも触れられていたが、共同研究や学内演習への参加を推進していくことは双方の理解のために検討が必要である。また看護系学校・大学の实習連携会議の開催も検討してゆきたいと考える。

7. 結論

臨地実習の課題克服のための先進的な取り組みが明らかになった。地域包括ケアシステム構築を反映した看護系学士課程の臨地実習の在り方を地域や実習施設と大学教育の理解を得てゆくことが今後の課題である。

引用・参考文献

- 1 日本看護系大学協議会:看護系学士課程における臨地実習の先駆的取り組みと課題-臨地実習の基準策定に向けて-報告書,2017.
- 2 厚生労働省(2017),地域包括ケアシステム,2017年12月29日閲覧 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
- 3 北村真弓,金田嘉清:「地域包括ケア中核センター」との連携による実習 地域へのまな

ざしをもつ看護師育成をめざして,看護展望 39(5)p456-460,2014.

- 4 北村真弓:藤田保健衛生大学医療科学部看護学科 大学による地域包括ケアの展開と地域に根ざした学生実習「藤田保健衛生大学訪問看護ステーション」「ふじたまちかど保健室」を実習場として,コミュニティケア17(13)p116-121,2015.
- 5 野村陽子:一年次からの地域看護学教育,週刊医学界新聞,第3233号2017,7月24日,医学書院
- 6 岩崎りほ,平井和明,板井里枝他:高齢者の健康と生活から学生が学ぶ予防的家庭訪問実習,看護展望41(10)p0973-0982,2016.
- 7 叶谷由佳:地域包括ケアシステムを見据えた看護教育に必要なこと,看護展望14(10)P0948-0953,2016.
- 8 神田清子,堀越政孝,佐藤由美他:地域包括ケアマインドを育てる看護教育,看護展望,41(10)p0961-0966,2016.
- 9 森實詩乃,田中博子:看護基礎教育における地域包括ケアを担う次世代看護師の養成の現状 在宅看護学実習「学びのレポート」の分析からの考察,帝京科学大学紀要,12,2016.
- 10 加藤琢江:自治体と企業の協働による健康づくり~松本市での取り組み,平成27年度全国地域包括ケア推進大会報告書~国民の健康を守る保健師Presens~生み出す未来へのコラボが生み出す未来へのチカラ2015,日本看護協会,p23-25,2016.
- 11 平原優実:在宅看護を学として教えること 多様な教育の現場から実習で伝える,日本在宅看護学会誌4(2)p27-28,
- 12 長谷川洋子,北村真弓,西山都師恵他:在宅看護学実習における大学と「地域包括ケア中核センター」との連携の試み,日本在宅看護学会誌3(1)p89,2014.
- 13 牛久保美津子:地域包括ケア時代における看護学教育の新たな取り組み 在宅ケアマインドを育てる地域完結型看護リーダー育成,日本看護科学学会学術集会講演集35回 p175,2015.
- 14 栗本一美,丸山純子:地域包括ケアに関する講義を受講した学生の学び A診療所の地域包括ケアの取り組みについて,インターナショナルNursing Care Research,15(3) p175-182,2016.